

資質・能力の育成のために、児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせることが大切です。そのために、視点（見方）や方法（考え方）に基づいた学習課題や発問などの構成を、資料を効果的に活用しながら単元のまとまりの中で工夫していく必要があります。

check 発問について

児童生徒が見方・考え方を働かせるために、視点や方法に基づいた次のような発問を、児童生徒の疑問とともに単元や本時の流れに沿って考えていきます。

- I 視点に着目して、社会的事象の様子や仕組みなどを捉える発問
- II Iにより捉えた事象を比較・分類・総合して事象の特色を考えたり、地域の人々や国民の生活と関連付けて事象の意味を考えたりする発問
- III 社会に見られる課題を把握して、学んだことを生かしながらその解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する発問

check 資料について

I～IIIの発問に加え、資料を適切に加工したり、提示方法を工夫したりすることが大切です。見方・考え方を働かせるように、何の資料をどのように提示し、どう問うか、併せて考えましょう。

[指導事例] 自然災害を防ぐ(小学校5年)・発問の例【活用資料】

各時間の学習課題の例

- 1 日本ではどのような自然災害が起こるのか。 I
- 2 なぜ、日本は自然災害が多いのか。 I・II
- 3 地震や津波の被害を防ぐために、どのような取組をしているのか。 I
- 4 風水害や火山の噴火、大雪の被害を防ぐために、どのような取組をしているのか。 I
- 5 自然災害を防ぐために、国や県はどのような役割を果たしているのか。 II
- 6 自然災害から身を守るために、これからの生活でどんなことに気を付けていけばよいか。 III

III 災害から身を守るために、自分にはできることはありますか。【「減災のてびき」(内閣府のHP)等の資料】

I どんな自然災害(種類)が起きていますか。【写真や年表】

災害の発生回数は多いのに、被害が少ないのはどうしてだろう。

I 災害はどんな時(時期)に、どんな所(場所)で起きていますか。【年表や災害地図】

水害は夏や秋に多いな。

I 夏や秋に水害が多くなるのはなぜ(理由)ですか。

この時期の雨量に着目すればよいのでは。【雨温図】

地形の影響もあるのでは。【地図】

II 日本で自然災害が多いのは何と関連があるといえますか。【年表や雨温図等】

II 様々な災害に対する国や県の取組について共通点はありませんか。【写真や対策をまとめた表】

・資料活用の留意点

災害の種類ごとに色分けするなど、資料の見せ方を工夫したり年表の不必要な情報を削除したりします。

読み取った事実について、既習事項や他の資料と関連させてその理由や背景などを考えさせます。

読み取った事実を比較させたりまとめさせたりして、共通点や相違点などについて考えさせます。

check 児童生徒の資料活用の技能について

単元ごとに全てを育成しようとするのではなく、資料の特性等に応じて、様々な場面で繰り返し指導することが大切です。
※小学校解説 P152～153 の「社会的な事象等について調べまとめる技能」を参照(中学校はP186～187)